

理学療法学科・作業療法学科 2年

授業科目名	運動学演習Ⅱ
区分	専門基礎分野
学期、単位、時間	前期 1単位 30時間
成績評価方法	下欄成績評価方法による

授業科目名	運動学演習Ⅱ
担当講師	橋本 宜昭
実務経験	<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 《 関連資格 理学療法士 》
授業の目的	<p>方向目標 運動学を実践的に(再)学習することで運動学を身につける。</p> <p>到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各関節の正常な構造と機能を説明できる ・実習で得られた結果を、運動学的に解釈できる ・身体運動・動作の特徴や仕組みを説明できる ・計測手法を用いて測定できる
授業の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・姿勢の評価（実習） ・肩甲帯・肩（実習） ・手関節・手指（実習） ・骨盤帯・股関節 ・膝・下腿 ・足関節・足部（実習） ・運動連鎖 ・歩行（実習） ・バランスについて
テキスト 参考書	<p>基礎運動学 第7版：医歯薬出版株式会社</p> <p>その他：適宜必要文献</p>
評価の方法	<p>レポート</p> <p>筆記試験</p>
受講上の注意	座学・実技形式（Webにて実施する場合あり）

理学療法学科・作業療法学科 2 年

授業科目名	整形外科学Ⅱ
区分	専門基礎分野
学期、単位、時間	前期 1 単位 30 時間
成績評価方法	下欄成績評価方法による

授業科目名	整形外科学Ⅱ
担当講師	高橋 欣吾・中居 祐大
実務経験	<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 《 関連資格 医師 》
授業の概要	<ol style="list-style-type: none"> 1. 肩関節 2. 肘関節 3. 手関節及び手指 4. 股関節 5. 膝関節 6. 足関節 7. 骨折総論（救命救急を含む） 8. 骨折外傷各論（1） 9. 骨折外傷各論（2） 10. 末梢神経 11. 脊髄損傷 12. スポーツ障害 13. 手術方法について（1） 14. 手術方法について（2） 15. 定期試験 <p>高橋先生：1～3、5～9 中居先生：4、10～14</p>
テキスト 参考書	標準整形外科学 第16版
評価の方法	試験結果による
授業の形式 受講上の注意	座学 (Webにて実施する場合あり)

理学療法学科・作業療法学科2年

授業科目名	神経内科学Ⅱ
区分	専門基礎分野
学期、単位、時間	前期 1単位 30時間
成績評価方法	下欄成績評価方法による

授業科目名	神経内科学Ⅱ	
担当講師	西口 皓喜 國近 敏伸 傳 秋光	
実務経験	西口 皓喜：☑有 ☐無 《関連資格：理学療法士》 國近 敏伸：☑有 ☐無 《関連資格：作業療法士》 傳 秋光：☑有 ☐無 《関連資格：医師》	
授業の目的	神経疾患各論について理解する	
授業の概要	第1回 西口担当	認知症 《到達目標》 ①：4大認知症の病態と症状の違いを説明できる。 ②：中核症状と周辺症状（BPSD）を区別し説明できる。 ③：認知症患者へのリハビリの留意点と対応を説明できる。
	第2回 西口担当	錐体外路の変性疾患・変性疾患・脱髄疾患 《到達目標》 ①：パーキンソン病の病態と四大症状を説明できる。 ②：代表的な神経変性疾患の病態と運動障害を説明できる。
	第3回 西口担当	末梢神経障害・てんかん 《到達目標》 ①：代表的な末梢神経障害の成因と主要症状を説明できる。 ②：てんかんの病態メカニズムと発作の分類を説明できる。 ③：末梢神経障害のリハビリとてんかんの対応を説明できる。
	第4回 西口担当	筋疾患 《到達目標》 ①：進行性筋ジストロフィーの病態と進行過程を説明できる。 ②：その他の主な筋疾患の病態と特有の症状を説明できる。 ③：筋疾患に対するリハビリのリスク管理を説明できる。
	第5回 西口担当	小児神経疾患 《到達目標》 ①：脳性麻痺の定義、原因、病型分類を説明できる。 ②：小児神経疾患の病態と合併症を説明できる。 ③：正常発達を理解し、小児リハビリの基本を説明できる。
	第6回 西口担当	廃用症候群と誤用症候群、合併症 《到達目標》 ①：廃用症候群の定義と各器官に生じる変化を説明できる。 ②：誤用症候群の発生メカニズムと具体例を説明できる。 ③：廃用・誤用症候群の予防策とリスク管理を説明できる。
	第7回 國近担当	脳血管障害① 《到達目標》 ①：脳血管障害の分類と病因、特徴、治療法が答えられる ②：急性期・回復期のリハビリテーションについて答えられる ③：回復過程を説明できる
	第8回 國近担当	脳血管障害② 《到達目標》 ①：共同運動の分離する過程をBrunnstrom stageに従って説明できる。 ②：各期におけるリハビリテーションの内容を挙げられる

第9回 國近担当	脳腫瘍・外傷性脳損傷 《到達目標》 ①：脳腫瘍の種類ごとの好発部位、症状、治療法、予後が答えられる ②：脳挫傷とびまん性軸索損傷の発症メカニズムを説明できる ③：それぞれの好発部位、症状を説明できる
第10回 國近担当	脊髄損傷 《到達目標》 ①：代表的な脊髄損傷の評価と髄節レベルでの予後を答えられる ②：随伴症状、合併症とその対応について答えられる
第11回 國近担当	感染性疾患、中毒性疾患、栄養欠乏による神経疾患 《到達目標》 ①：代表的な病原微生物をウイルス、菌、動物界に分類できる ②：HIV・脳炎などの症状、治療、予後が答えられる ③：栄養欠乏の代表的な例をあげ、症状が説明できる
第12回 國近担当	排尿障害・性機能障害 《到達目標》 ①：神経因性膀胱の原因、症状、検査について説明できる ②：排尿中枢の機能分担を説明できる ③：性機能に関する神経系とホルモンについて答えられる
第13・14回 傳担当	画像について 《到達目標》 ①：各種画像の特徴を説明することができる ②：画像から障害部位や機能障害・能力障害を予測することができる
第15回	まとめ・確認テスト
テキスト 参考書	標準理学療法学・作業療法学 基礎専門分野 「神経内科学」 第6版
評価の方法	定期試験による（60点以上を合格とする）
授業の形式 受講上の注意	座学（Webにて実施する場合もある）

はくほう会医療専門学校赤穂校

理学療法・作業療法学科2年

授業科目名	精神医学 I
区分	専門基礎分野
学期、単位、時間	前期 1単位 30時間
成績評価方法	下欄成績評価方法による

授業科目名	精神医学 I						
担当講師	塚原健司						
実務経験	<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 《 関連資格 精神保健福祉士・公認心理士 》						
授業の目的	・OT・PTとして業務を進めていく上で必要な精神医学の理解を深める。						
授業の概要	<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション・治療的な関わりとは 2 ICFとは・ICD-10とDSM-V 3 脳科学 4 認知症 I 5 認知症 II 6 依存症 I 7 依存症 II 8 依存症 III 9 統合失調症 I 10 統合失調症 II 11 統合失調症 III 12 摂食障害 13 予備日 14 期末テスト対策 15 期末テスト <p>・学習の進捗や状況によって変更することもあります。 ・適時DVDや事例などの資料も利用して分かり易い講義になるように努力します。</p>						
テキスト 参考書	臨床につながる精神医学 渡辺雅幸 医歯薬出版 標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 精神医学						
評価の方法	<table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 60%;">授業態度</td> <td style="text-align: right;">20%</td> </tr> <tr> <td>レポート</td> <td style="text-align: right;">30%</td> </tr> <tr> <td>期末テスト</td> <td style="text-align: right;">50%</td> </tr> </table>	授業態度	20%	レポート	30%	期末テスト	50%
授業態度	20%						
レポート	30%						
期末テスト	50%						
授業の形式 受講上の注意	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的には講義形式ですがグループワークもあります。積極的な授業への参加を期待します。 ・Webにて講義を行う場合もあります。 						

理学療法・作業療法学科 2年

授業科目名	薬理学
区分	専門基礎分野
学期、単位、時間	前期 1単位 30時間
成績評価方法	下欄成績評価方法による

授業科目名	薬理学																																										
担当講師	増田 智先																																										
実務経験	<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 《 関連資格 薬剤師 》																																										
授業の目的	リハビリテーションの効果を発揮するうえで、薬剤を知ることは、とても重要です。薬理学を学び薬の主作用・副作用を理解し、副作用について早期発見できるようになり、安全にリハビリテーションを進めていけるようになりましょう。地域包括ケアシステムの一員となり多職種連携の中でリハ職として薬剤に関して意見交換できるようにしましょう。																																										
授業の概要	<p style="text-align: center;">理学療法・作業療法学科 2年「薬理学」</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 15%;">日付</th> <th style="width: 10%;">時限</th> <th style="width: 75%;">授業内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2" style="text-align: center;">5月11日</td> <td style="text-align: center;">4</td> <td>1 薬理学の基礎知識1第1~2章</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">5</td> <td>2 薬理学の基礎知識2第3~4章</td> </tr> <tr> <td rowspan="2" style="text-align: center;">5月18日</td> <td style="text-align: center;">4</td> <td>3 薬理学の基礎知識3第5~6章</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">5</td> <td>4 臨床薬理学12</td> </tr> <tr> <td rowspan="2" style="text-align: center;">5月25日</td> <td style="text-align: center;">4</td> <td>5 感染・炎症の制御と薬物療法・神経疾患の薬物療法</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">5</td> <td>6 精神疾患・循環器系疾患の薬物療法</td> </tr> <tr> <td rowspan="2" style="text-align: center;">6月8日</td> <td style="text-align: center;">4</td> <td>7 疼痛の制御と薬物療法・注意すべき常用される薬物</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">5</td> <td>8 総合学習</td> </tr> <tr> <td rowspan="2" style="text-align: center;">6月15日</td> <td style="text-align: center;">4</td> <td>9 定期試験</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">5</td> <td>10 演習1添付文書を使って身近な薬を調べてみよう1</td> </tr> <tr> <td rowspan="2" style="text-align: center;">6月22日</td> <td style="text-align: center;">4</td> <td>11 演習2添付文書を使って身近な薬を調べてみよう2</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">5</td> <td>12 演習3高齢者施設のリハ薬剤1</td> </tr> <tr> <td rowspan="2" style="text-align: center;">6月29日</td> <td style="text-align: center;">4</td> <td>13 演習4高齢者施設のリハ薬剤2</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">5</td> <td>14 演習5 回復期リハ病棟のリハ薬剤1</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">7月6日</td> <td style="text-align: center;">4</td> <td>15 演習6 回復期リハ病棟のリハ薬剤2</td> </tr> </tbody> </table>		日付	時限	授業内容	5月11日	4	1 薬理学の基礎知識1第1~2章	5	2 薬理学の基礎知識2第3~4章	5月18日	4	3 薬理学の基礎知識3第5~6章	5	4 臨床薬理学12	5月25日	4	5 感染・炎症の制御と薬物療法・神経疾患の薬物療法	5	6 精神疾患・循環器系疾患の薬物療法	6月8日	4	7 疼痛の制御と薬物療法・注意すべき常用される薬物	5	8 総合学習	6月15日	4	9 定期試験	5	10 演習1添付文書を使って身近な薬を調べてみよう1	6月22日	4	11 演習2添付文書を使って身近な薬を調べてみよう2	5	12 演習3高齢者施設のリハ薬剤1	6月29日	4	13 演習4高齢者施設のリハ薬剤2	5	14 演習5 回復期リハ病棟のリハ薬剤1	7月6日	4	15 演習6 回復期リハ病棟のリハ薬剤2
日付	時限	授業内容																																									
5月11日	4	1 薬理学の基礎知識1第1~2章																																									
	5	2 薬理学の基礎知識2第3~4章																																									
5月18日	4	3 薬理学の基礎知識3第5~6章																																									
	5	4 臨床薬理学12																																									
5月25日	4	5 感染・炎症の制御と薬物療法・神経疾患の薬物療法																																									
	5	6 精神疾患・循環器系疾患の薬物療法																																									
6月8日	4	7 疼痛の制御と薬物療法・注意すべき常用される薬物																																									
	5	8 総合学習																																									
6月15日	4	9 定期試験																																									
	5	10 演習1添付文書を使って身近な薬を調べてみよう1																																									
6月22日	4	11 演習2添付文書を使って身近な薬を調べてみよう2																																									
	5	12 演習3高齢者施設のリハ薬剤1																																									
6月29日	4	13 演習4高齢者施設のリハ薬剤2																																									
	5	14 演習5 回復期リハ病棟のリハ薬剤1																																									
7月6日	4	15 演習6 回復期リハ病棟のリハ薬剤2																																									
テキスト参考書	リハベーシック 薬理学・臨床薬理学 内山靖、藤井浩美、立石雅子編 2020 医師薬出版株式会社																																										
評価の方法	定期試験（60%）＋演習の評価（40%） 60点以上																																										
授業の形式 受講上の注意	基本は講義形式で行う																																										

理学療法学科・作業療法学科 2年

授業科目名	栄養学
区分	専門基礎分野
学期、単位、時間	前期 1単位 30時間
成績評価方法	下欄成績評価方法による

授業科目名	栄養学
担当講師	八木拓磨
実務経験	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
授業の目的	栄養素の種類、体内における働き、性別やライフステージ毎の必要量を理解し、健康や身体機能の維持・増進との関連について学習を行う。
授業の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・リハビリテーションにおける栄養管理の必要性 ・栄養療法に必要な生化学・栄養学 ・運動と栄養 ・疾患と栄養 ・栄養評価 ・主な病態の栄養療法 ・サルコペニア・フレイルの栄養療法 ・グループディスカッション
テキスト 参考書	配布資料
評価の方法	筆記試験 グループディスカッション
授業の形式 受講上の注意	座学、実技形式

理学療法学科 2年

授業科目名	理学療法演習Ⅰ
区分	専門分野
学期、単位、時間	前期 1単位 30時間
成績評価方法	下欄成績評価方法による

授業科目名	理学療法演習Ⅱ
担当講師	理学療法学科教員
実務経験	あり 関連資格 理学療法士
授業の目的	<p>一般目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・理学療法プロセスを再確認すると共に理解を深める。 ・評価実習・臨床実習に必要な評価の理解と技術の向上を目指す。 ・対象者への検査を実施する。 ・実習遂行に必要な最低限の知識の会得を目指す。 <p>行動目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・MMT(上肢・下肢・体幹)が実施できる ・評価の目的を理解し、結果について解釈できる
授業の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・1年次に学習した評価における検査・測定の基本的な技術を復習する。 ①MMT(上肢・下肢・体幹) ・対象者への検査・測定を臨床での状況を想定して、より高いレベルで実施できるように技術の習熟度を高める。 ・各検査の確認の実技テストを担当教員が実施する。
テキスト 参考書	津山直一・中村耕三訳：新・徒手筋力検査法. 協同医書出版
評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> ・実技テスト ※上記に記載した検査の全てにおいて合格する必要がある。
授業の形式 受講上の注意	実技形式

理学療法学科 2年

授業科目名	検査・測定論Ⅲ
区分	専門分野
学期、単位、時間	前期 1単位 30時間
成績評価方法	下欄成績評価方法による

授業科目名	検査・測定論Ⅲ
担当講師	中村 めぐみ
実務経験	<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 《関連資格》理学療法士
授業の目的	<p>方向目標 理学療法プロセスにおける評価の位置づけや各検査法の意義・目的を理解し、確かな技術を習得する。</p> <p>到達目標 各検査を実施する目的を説明できる。 各検査法を正確に実施することができる。 正確な検査結果を導き出すことができる。</p>
授業の概要	<p>◆疼痛検査</p> <ul style="list-style-type: none"> ・疼痛の分類 ・疼痛の検査手順 ・疼痛の評価法 (VAS、NRS、FRS) <p>◆感覚検査</p> <ul style="list-style-type: none"> ・感覚とは ・感覚の分類 ・感覚検査の手順と器具 ・感覚検査の実際 <p>◆反射検査</p> <ul style="list-style-type: none"> ・反射の反射弓、種類 ・深部腱反射 ・表在反射 ・病的反射 <p>◆筋緊張検査</p> <ul style="list-style-type: none"> ・筋緊張の神経学的基礎 ・筋緊張の異常 ・筋緊張検査の実際 <p>◆バランス検査</p> <ul style="list-style-type: none"> ・バランスとは ・バランス検査の実際
テキスト 参考書	標準理学療法学 理学療法評価学 第4版 医学書院 その他適宜参考書
評価の方法	実技試験 (OSCE 形式)
授業の形式 受講上の注意	座学&実技 (実技は 実習 着用) *座学は場合により WEB 対応となる。

理学療法学科 2 年

授業科目名	検査・測定論Ⅳ
区分	専門分野
学期、単位、時間	前期 1 単位 30 時間
成績評価方法	下欄成績評価方法による

担当講師	森澤 文博
実務経験	<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 《 関連資格 理学療法士 》
授業の目的	<p>方向目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ➤ 目で見た姿勢や動作を捉え、文字に起こす表現力を養う ➤ 理学療法検査の結果をアセスメント（分析）する <p>到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ➤ 解剖学的、運動学的用語を用いできるよ観察結果を表現できるようになる ➤ 各動作における理想的な重心移動を把握し、介助できるようになる ➤ 検査の意義を理解し、検査結果が示す身体情報を把握できるようになる
授業の概要	<p>1 理学療法検査について</p> <p>1-1 各検査の目的</p> <p>1-2 各検査のアセスメント方法</p> <p>2 解剖学的・運動学的用語について</p> <p>2-1 姿勢とは</p> <p>2-2 運動力学に関する知識</p> <p>2-3 姿勢の安定性と不安定性（動きやすさ）</p> <p>2-4 姿勢の記載と類型</p> <p>2-5 観察に必要なランドマークの触診</p> <p>3 姿勢観察</p> <p>3-1 臥位姿勢</p> <p>3-2 座位姿勢</p> <p>3-3 立位姿勢</p> <p>4 動作観察</p> <p>4-1 寝返り動作</p> <p>4-2 起き上がり動作</p> <p>4-3 立ち上がり動作</p> <p>5 介助方法</p> <p>5-1 寝返り動作介助</p> <p>5-2 起き上がり動作介助</p> <p>5-3 立ち上がり動作介助</p> <p>5-4 移乗動作（ベッド⇄車椅子）</p>
テキスト 参考書	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 動作のメカニズムがよく分かる 実践！動作分析：医歯薬出版株式会社 ➤ 基礎運動学：医歯薬出版株式会社 ➤ 理学療法評価法 ➤ 適宜必要文献
評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> ➤ レポート課題 ➤ 小テスト ➤ 筆記試験
授業の形式 受講上の注意	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 実技・座学形式 ➤ 実技の服装は実習着とする

理学療法学科 2 年

授業科目名	理学療法技術論
区分	専門分野
学期、単位、時間	前期 1 単位 30 時間
成績評価方法	下欄成績評価方法による

担当講師	森澤 文博
実務経験	<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 《 関連資格 理学療法士 》
授業の目的	<p>方向目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ➤ 近年増加率が高い、内部障害と理学療法の役割を理解する <p>到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ➤ リスク管理能力を身につける ➤ 循環器疾患の病態像から理学療法を結びつける ➤ 代謝・内分泌性疾患の病態像から理学療法を結びつける
授業の概要	<ol style="list-style-type: none"> 1. Introduction・循環器系の解剖・生理学 2. 虚血性心疾患 3. 心不全 4. 末梢動脈疾患 5. 循環器疾患の画像評価 6. 心電図 7. 循環器疾患の身体機能・構造の評価 8. 循環器疾患の活動と参加の評価 9. 運動負荷試験と理学療法 10. 急性期・回復期の理学療法 11. 包括的な心臓リハビリテーション 12. 代謝・内分泌疾患の理学療法 <ul style="list-style-type: none"> (ア) 糖尿病 <ol style="list-style-type: none"> ① 病態理解 ② 治療法 ③ 合併症 13. 糖尿病に対する理学療法
テキスト 参考書	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 内部障害理学療法学 ➤ 解剖学Ⅱ・生理学・運動生理学の講義資料
評価の方法	筆記試験
授業の形式 受講上の注意	<p>実技・座学形式</p> <p>実技の服装は実習着とする</p>

理学療法学科 2年

授業科目名	基礎運動療法 I
区分	専門分野
学期、単位、時間	前期 1単位 30時間
成績評価方法	下欄成績評価方法による

授業科目名	基礎運動療法 I
担当講師	藤村忠史
実務経験	<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 《 関連資格 理学療法士 》
授業の目的	理学療法の根幹をなす運動療法について、それに関する基礎知識と基本的な考え方を学ぶ。
授業の概要	<p><u>講義の概略構成</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 運動療法の歴史 ・ 運動療法とは何か ・ 関節の構造と運動 ・ 筋と筋収縮 ・ 随意運動と運動制御モデル ・ 運動制御と運動学習 ・ 関節可動域運動（狭義） <p><u>講義の進め方</u></p> <p>テキストに沿って進める。実際の臨床現場で実施されている運動療法のメカニズムを理解させる。適宜、参考資料を配布する。</p>
テキスト 参考書	標準理学療法学 運動療法学総論 医学書院 適宜必要文献
評価の方法	筆記試験の点数を基準として評価する。
授業の形式 受講上の注意	講義は座学にて実施。

理学療法学科2年

授業科目名	物理療法 I
区分	専門分野
学期、単位、時間	前期 1 単位 30 時間
成績評価方法	下欄成績評価方法による

授業科目名	物理療法学 I
担当講師	橋本 宜昭
実務経験	<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 《 関連資格 理学療法士 》
授業の目的	<p>一般目標</p> <p>物理的エネルギー（熱・水・光線・電気・機械刺激等）が各種の病態に対して有効に作用する生理学的根拠に関する理解を深める。</p> <p>行動目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・適応と禁忌について説明できる。 ・物理療法の原理を含めた特性を学び、機器の取り扱いができる。 ・炎症メカニズムや組織修復メカニズムを説明できる。
授業の概要	<p>授業の進め方</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前期は温熱療法・寒冷療法を中心に行う ・実際の物理療法設備を用いて、処方の工夫や機器の扱い注意点を体験する。 <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション、レポートの作成について 2. 炎症・温熱療法と寒冷療法 3. 水治療法と牽引療法 4. 実習 1 準備 5. 実習 1 実施 6. 実習 2 準備（実習 1 レポート提出） 7. 実習 2 実施 8. 実習 3 準備（実習 2 レポート提出）+（実習 1 フィードバック） 9. 実習 3 実施 10. 実習 4 準備（実習 3 レポート提出）+（実習 2 フィードバック） 11. 実習 4 実施 12. 電磁波療法（実習 4 レポート提出）+（実習 3 フィードバック） 13. まとめ+（実習 4 フィードバック） 13. 電気刺激療法の概要 14. 超音波療法 15. 前期まとめ
テキスト 参考書	標準理学療法学 専門分野 物理療法学
評価の方法	レポート課題、(筆記試験)
授業の形式 受講上の注意	<p>座学・実技形式（Web での講義となる場合もある）</p> <p>実習時は身体各部を露出できる服装で参加すること。</p> <p>また物理療法学を理解するには、特に循環や神経筋生理学の知識は不可欠であるので、必ず生理学の知識を確認しながら授業に臨むよう心がけてもらいたい。</p>

理学療法学科 2 年

授業科目名	日常生活活動Ⅱ
区分	専門分野
学期、単位、時間	前期 1 単位 30 時間
成績評価方法	下欄成績評価方法による

授業科目名	日常生活活動Ⅱ
担当講師	小林 憲人
実務経験	<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 《 関連資格 理学療法士 》
授業の目的	日常生活Ⅰで学んだ日常生活活動に関する全般的な基本知識をもとに、日常生活Ⅱでは疾患をベースとして、各対象者の ADL 能力やその状態を専用の評価尺度を用いて精度良く捉え、その上で各対象者の特性に合致した適正なアプローチが可能となるよう、その基本を学ぶ。
授業の概要	<p><u>授業の概略構成</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 片麻痺、パーキンソン病などの中枢神経・神経筋疾患 (実技練習) ・ 呼吸障害、循環障害 ・ 切断・関節リウマチなどの骨・関節障害 ・ 認知症などの老年期障害 ・ 糖尿病、ストマ・血友病、視・聴覚障害、コミュニケーション障害
テキスト 参考書	標準理学療法学 日常生活活動学・生活環境論
評価の方法	筆記試験 実技練習
授業の形式 受講上の注意	座学は教室 実習は治療室で実施します。

理学療法学科 2 年

授業科目名	骨関節疾患系 I
区分	専門分野
学期、単位、時間	前期 2 単位 60 時間
成績評価方法	下欄成績評価方法による

授業科目名	骨関節疾患系 I
担当講師	橋本 宜昭、中村 めぐみ
実務経験	<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 《 関連資格 理学療法士 》
授業の目的	<p>一般目標</p> <ul style="list-style-type: none"> 各疾患の病態を理解し、医師の診断・処方を正確に理解する能力を身につける 処方箋の情報から検査を実施し、理学療法を展開できる能力を身につける 整形外科的検査を学習し、検査で組織に加えるストレスを解剖学・運動学で学んだ知識と関連付けて理解する。 <p>行動目標</p> <ul style="list-style-type: none"> 各疾患について概要を説明できる 各疾患の病態を説明できる 疾患に必要な評価を列挙できる 評価から考えられる問題点を把握し、適切な運動療法を説明できる 整形外科的検査を実施できる。
授業の概要	<p>1 単位分 整形外科的検査を中心に実施する</p> <p>1 単位分 (座学)</p> <ul style="list-style-type: none"> 組織の再生・修復について 骨折について (大腿骨頸部／転子部骨折 (人工骨頭置換術など)) 変形性股・膝関節症 (人工関節全置換術など) について 腰部疾患 (腰椎椎間板ヘルニア、椎体圧迫骨折など) について 肩の疾患 (肩関節周囲炎、腱板損傷など) について 靭帯損傷・半月板損傷について 足関節、足部の障害について
テキスト 参考書	<p>標準理学療法学 専門分野 骨関節理学療法学</p> <p>標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 整形外科学</p> <p>その他適宜必要文献</p>
評価の方法	<p>提出物と筆記試験</p> <p>実技テスト</p>
授業の形式 受講上の注意	座学・実技形式 (Web にて実施する場合あり)

理学療法学科 2年

授業科目名	義肢装具学 I
区分	専門分野
学期、単位、時間	前期 1単位 30時間
成績評価方法	下欄成績評価方法による

授業科目名	義肢装具学 I
担当講師	屋我 平直
実務経験	<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 《 関連資格 義肢装具士 》
授業の目的	義肢学の基礎を学ぶ
授業の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・ 義肢装具の支給体制 ・ 義肢の分類 ・ 義肢の構成要素 ・ 切断原因、切断レベル ・ 義手 (肩、上腕、前腕、手部、手指、筋電義手) ・ 下腿義足 (ソケット、足継手・足部、アライメント) ・ 大腿義足 (ソケット、膝継手、アライメント) ・ 股義足、膝義足、足根義足
テキスト 参考書	佐伯 覚 編 義肢装具学 医学書院
評価の方法	筆記試験
授業の形式 受講上の注意	座学形式 (Web にて実施する場合があります)

理学療法学科 2年

授業科目名	神経障害系 I
区分	専門分野
学期、単位、時間	前期 2単位 60時間
成績評価方法	下欄成績評価方法による

授業科目名	神経障害系 I
担当講師	小林 憲人 西口 皓喜
実務経験	<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 《 関連資格 理学療法士 》
授業の目的	脳血管に起因する中枢神経障害をもたらす運動障害に関する知識を基に、それに対する理学療法の理論と技術を習得する。
授業の概要	<ul style="list-style-type: none"> ① 中枢神経の構造と脳画像 ② 中枢神経系のネットワークと機能障害 ③ 脳卒中の回復メカニズム ④ 障害の評価・病態のリスク管理 ⑤ 運動麻痺・感覚障害・異常筋緊張 ⑥ 歩行障害 ⑦ 急性期・回復期・生活期 ⑧ 事例検討
テキスト 参考書	脳画像・標準理学療法学
評価の方法	筆記試験 小テスト
授業の形式 受講上の注意	座学形式・実技形式 (Webにて実施する場合あり)

理学療法学科 2年

授業科目名	小児系
区分	専門分野
学期、単位、時間	前期 1単位 30時間
成績評価方法	下欄成績評価方法による

授業科目名	小児系	
担当講師	宍戸聖弥、西口皓喜、橋本宜昭	
実務経験	<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 《 関連資格 作業療法士(宍戸)・理学療法士(西口・橋本) 》	
授業の目的	小児の発達における特性を理解したうえで、小児の疾患や障害の評価と治療ができるよう基礎知識と技術を身につける。	
授業の概要	第 1-7 回	脳性麻痺児（痙直型、AT 型、失調型など）について <到達目標> ①各種脳性麻痺について理解し、理学療法士として評価を実施できる。 ②対象の脳性麻痺児に則したリハビリテーション介入ができる。
	第 8-10 回	ダウン症候群とデュシェンヌ型筋ジストロフィー（DMD）、発達障害全般について <到達目標> ①ダウン症候群と DMD、発達障害全般の概要と基礎を理解できる。 ②ダウン症候群と DMD、発達障害全般の各期におけるリハビリテーションを理解することができる。
	第 11-14 回	小児整形疾患（整形疾患、二分脊椎など）について <到達目標> ①小児整形疾患の評価と治療について理解できる。 ②その他の小児理学療法に関する知識を深めることができる。
	第 15 回	定期テスト（第 1 回から 14 回で学んだ内容について）
テキスト 参考書	<必須> ・新田 収：小児理学療法学 医歯薬出版（教科書）	
評価の方法	レポート課題や小テスト、定期テストの得点合計が 60 点以上を合格とする。	
授業の形式 受講上の注意	座学（Web 対応となる場合もある）、実技等	

理学療法学科2年

授業科目名	生活環境論Ⅱ
区分	専門分野
学期、単位、時間	前期 1 単位 30 時間
成績評価方法	下欄成績評価方法による

授業科目名	生活環境論Ⅱ	
担当講師	國近敏伸	
実務経験	<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 《 関連資格 作業療法士 》	
授業の目的	<ol style="list-style-type: none"> ① 疾患別にみた福祉住環境整備の方法について学ぶ ② 相談援助の考え方と福祉住環境整備の進め方について学ぶ ③ 福祉住環境整備の基本技術と実践に伴う知識を身に付ける ④ 福祉用具の活用について学ぶ 	
授業の概要	第 1-14 回	<p>< 学習課題 ></p> <p>P145 内部障害とリハビリテーション～p328 福祉用具まで</p> <ul style="list-style-type: none"> ・障害別にみた福祉住環境整備。各疾患の特徴とそれに対する環境整備を学ぶ。 ・自立支援を効果的に進める為のマネジメントや多職種連携について学ぶ ・生活行為別の福祉住環境整備の基本を学ぶ ・建物の構造、施工、設備などの基礎知識を身に付ける <p>< 到達目標 ></p> <ol style="list-style-type: none"> ① 各疾患に対する環境整備を例に挙げて答えることができる ② 相談援助の過程を説明でき、多職種連携について具体的な職種とのつながりを答えることができる ③ 段差解消やスペースの配慮といった基礎知識と効果的に行う方法について具体例をあげ説明することができる ④ 手すりの高さや設置場所など生活場面における設定について答えられる ⑤ 福祉用具の適応評価のポイントが例をあげて答えられる
	第 15 回	<p>定期試験 ○×形式の問題(40～50 問)</p> <p>テキスト第5章(最終章)まで</p>
テキスト参考書	改訂版福祉住環境コーディネーター検定試験 2 級公式テキスト改訂 7 版 配布資料・準備資料	
評価の方法	定期試験を実施(合格基準:6 割で合格)	
授業の形式 受講上の注意	7月に行われる検定試験受験は(東京商工会議所)は希望者のみとする	